

医師のコラム

# VPDを知っていますか？

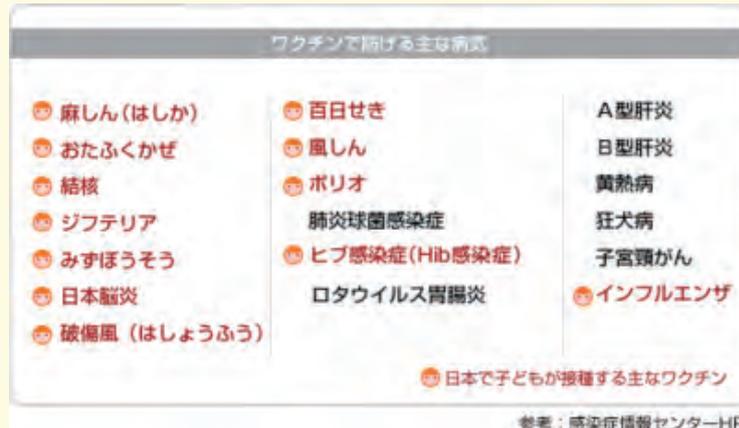
朝霞台中央総合病院

小児科部長 小林真澄

Vaccine = ワクチン  
Preventable = 防げる  
Diseases = 病気

皆さんは“VPD”という言葉をご存じですか？おそらく『はじめて聞いた』という方が多いと思います。小児科医でも、もしかしたらこの言葉自体は知らない人がいるかもしれません。  
これはVaccine Preventable Diseases = ワクチンで防げる病気の略です。

子どもたちがかかりやすいVPDには、次のようなものがあります



参考：感染症情報センターHP KNOW-VPDホームページより引用

予防接種などで聞いたことがある病気もあるでしょう。インフルエンザは今、新型が出て話題になっていますが(2009.5.27現在)、数年前に大学生を中心とした若い人達の麻疹の流行なども記憶にあるかと思います。これらの病気の中には子供の命にかかわる重大な病気も多くあります。現実に日本では今も毎年多くの子供たちが、ワクチンで予防できるはずのVPDに感染して苦しんだり、後遺症を残したり、死亡したりしています。世界中にはとてもたくさんの感染症があります。マラリヤのようにワクチンがないために有効な予防ができず、年間何十万、何百万という人の命を奪っている感染症も少なくありません。予防のためのワクチンが開発されているVPDはごく少数派です。しかしせっかくワクチンがあっても、接種しなければ予防できません。防ぐ方法がある病気を防がない。これはとてももったいないと思いませんか？

あまり知られていないことですが、日本は欧米などの国に比べて大変多くの子供たちがVPDにかかって、健康を損ねたり、命を落としたりしています。なぜなのでしょう？それは、ワクチンの効果や接種しなかったときの不利益についての正確な情報を知らないからだだと思います。昨年からヒブワクチンがやっと接種できるようになりましたが、この髄膜炎にかかって亡くなったり、後遺症を残した子供たちは、私自身も経験しています。

私は3年間ほど都内にある外国人や海外赴任をしていた人の多い病院に勤務していました。その時に、海外から帰ってきたお母さんたちの多くが、遅れている日本の予防接種の状況を知って驚いていたのを印象深く覚えています。

「VPDを知って、子どもを守ろう」という会があります。私はこの会の会員になっていて、今ここで書いたことは、この会のホームページからの引用によるものです。ワクチンのことについて、もっと詳しく知りたい方はぜひこのホームページにアクセスしてみてください。

【URL】<http://www.know-vpd.jp/>



予防接種は子供の年齢、状況(例えば保育園に通っている場合はできるだけ接種しておいた方がよい等)、そして体調などによって個々に考えなければなりません。

ぜひ、かかりつけの小児科医と相談して、子供たちが防げたはずの病気にかかって苦しむことがないようにしてほしいと思います。



朝霞台中央総合病院小児科ホームページ  
<http://www.asakadai-hp.jp/syonika/>